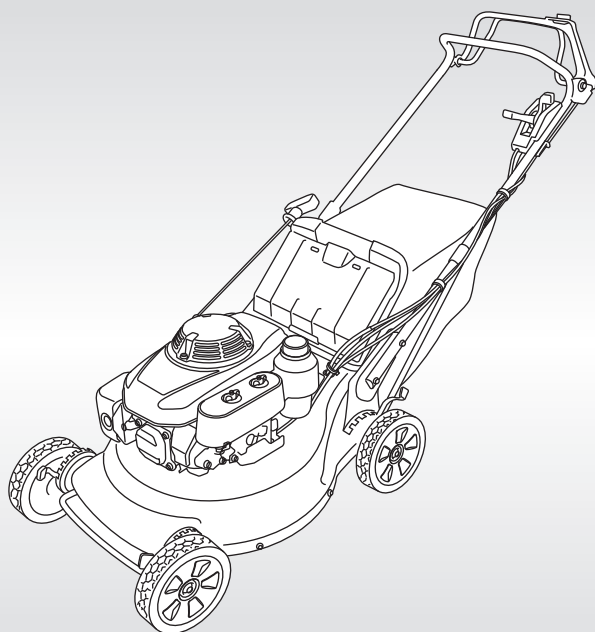


HONDA

歩行型芝刈機

HRC536

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。



お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました販売店またはサービス店にお気軽にお申しつけください。



本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用
ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合してい
ます。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた芝刈機で安全かつ能率的な芝刈り作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

- －芝刈り作業をするときは、必ず携帯してください。
- －本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- －紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目 次

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう	4
安全ラベル	7
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	9
燃料コックレバー	11
始動グリップ	11
エンジン回転調節レバー	12
走行クラッチレバー	12
ブレードブレーキクラッチレバー	13
速度調節レバー	13
刈取り高さ調節レバー	14
収納袋	14
作業前に点検しましょう	15
作業前の点検	15
燃料の点検	16
エンジンオイルの点検	18
エアクリーナー（空気清浄器）の点検	19
刈刃の点検	20
刈刃締付けボルトの点検	22
各部の締付けの点検	22
収納袋の点検	22
エンジンのかけかた	23
運転操作のしかた	25
1 刈取り高さの調節	25
2 エンジン始動	26
3 運転操作	26
4 刈取り作業	28
5 収納袋の脱着	30
エンジンのとめかた	31

定期手入れを行いましょう	32
定期点検整備項目	32
点検・整備のしかた	33
エンジンオイルの交換	33
エアクリナー（空気清浄器）の清掃	35
点火プラグの点検、調整、交換	36
走行クラッチケーブルの点検、調整	37
ブレードブレーキクラッチケーブルの点検、調整	39
長期間使用しない時の手入れ	40
故障のときは	43
主要諸元	45
同梱部品の組付けかた	46

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を行い本機を常に良好な操作状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などを近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して、給油限界位置を超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、良く乾かしてからエンジンを始動してください。
- 屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

警告

- 衣類や頭髮、手ぬぐいなどが巻き込まれないように作業に適した服装をし、防護メガネ、作業に適した靴などを用いて作業してください。
- 夜間や悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。
- 土や砂利などの上では刈刃を回転させないでください。石などの異物が飛び出すおそれがあります。
- 収納袋を取りはずして作業しないでください。刈取った芝や小石などが飛び出し大ケガをするおそれがあります。
- 収納袋を取りはずすときは、エンジンを停止してください。
- 本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。点検は必ず厚手の手袋を着用してください。
- 本機を使用する前に収納袋を点検してください。すり切れたり穴のあいている物、また縫い目がほころびている物は新品に交換してください。
- 外気温が5℃未満になる様な環境で使用すると、防護装置が損傷し、事故を起こす可能性があります。
- 本機は芝刈り作業以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 芝が濡れていたり、雨天のときは芝刈り作業をしないでください。転倒の危険が増します。

●作業中

- エンジンが始動しているときは、手や足を刈刃カバーの上におかないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤ってさわると大ケガをします。
- 作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。作業範囲内に人や動物などを近づけないでください。もし人や動物が近づいたら作業を停止してください。
- 作業中はハンドルをしっかりと持ち足元に注意して行ってください。転倒するおそれがあるので走らず本機の速度に合わせて作業してください。

警告

- 移動、方向転換するときは、刈刃を停止させ、走行クラッチレバーのみ使用して行ってください。刈刃が回転していると異物などの飛び出しにより大ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での芝刈りは、上下方向でなく、横方向（等高線方向）に行ってください。また急な斜面では作業しないでください。転倒するおそれがあります。
- 本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。
- エンジン運転中は、刈取り高さの調節をしないでください。誤ってレバーを操作されると本機が動き出し大ケガをするおそれがあります。
- 作業中本機や刈刃が障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するために点火プラグキャップをはずし（36 頁参照）、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合修理しないで再始動すると、損傷のある部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。
- 過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。
- エンジンをかけたまま本機を芝の上に放置しないでください。マフラーの熱で芝をこがしてしまうばかりでなく、誤って操作されると思わぬ事故の原因となることがあります。

●作業が終わったら

- 各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分に冷えてから行ってください。
- 長期保管前には、燃料タンク内の燃料とキャブレターの燃料を抜き取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- 車への積み降しは、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。
- 運搬時には、転倒や落下しないよう確実に固定してください。また燃料を抜いてください。

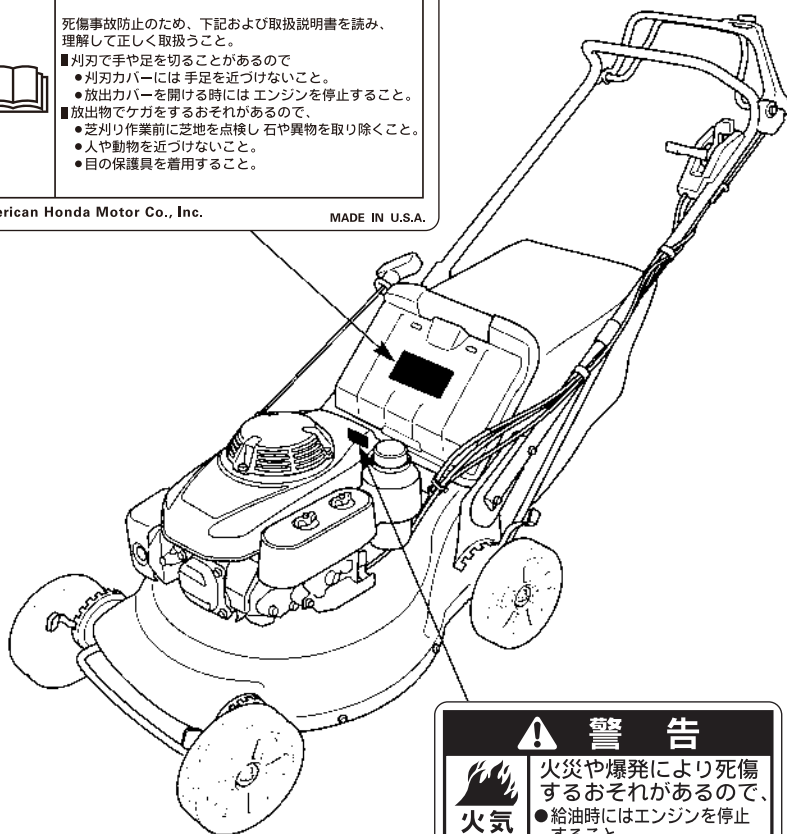
安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

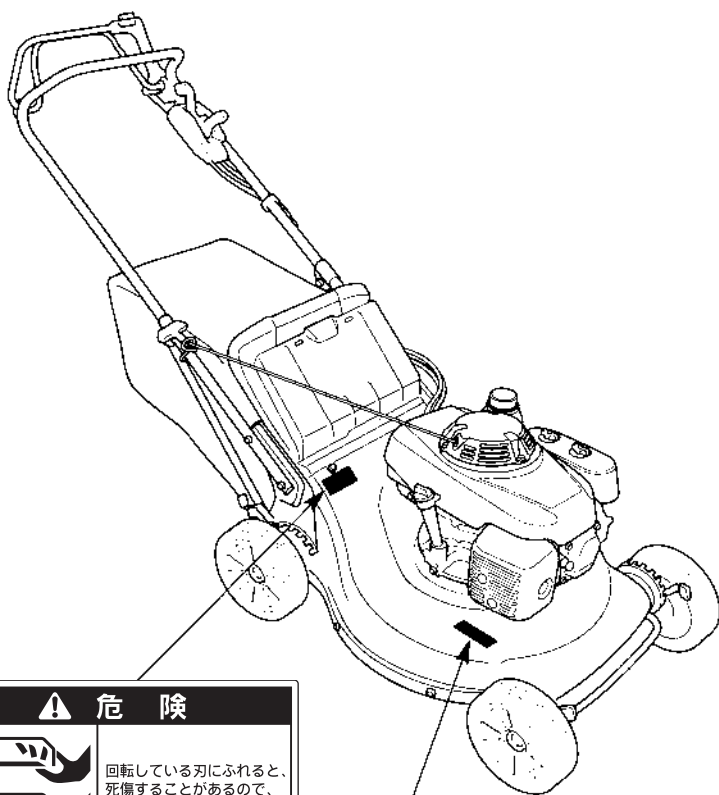
ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店へお問い合わせください。

⚠ 警 告	
	死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。 ■ 刈刃で手や足を切ることがあるので ● 刈刃カバーには手足を近づけないこと。 ● 放出カバーを開ける時にはエンジンを停止すること。 ■ 放出物でケガをするおそれがあるので、 ● 芝刈り作業前に芝地を点検し、石や異物を取り除くこと。 ● 人や動物を近づけないこと。 ● 目の保護具を着用すること。
American Honda Motor Co., Inc. MADE IN U.S.A.	



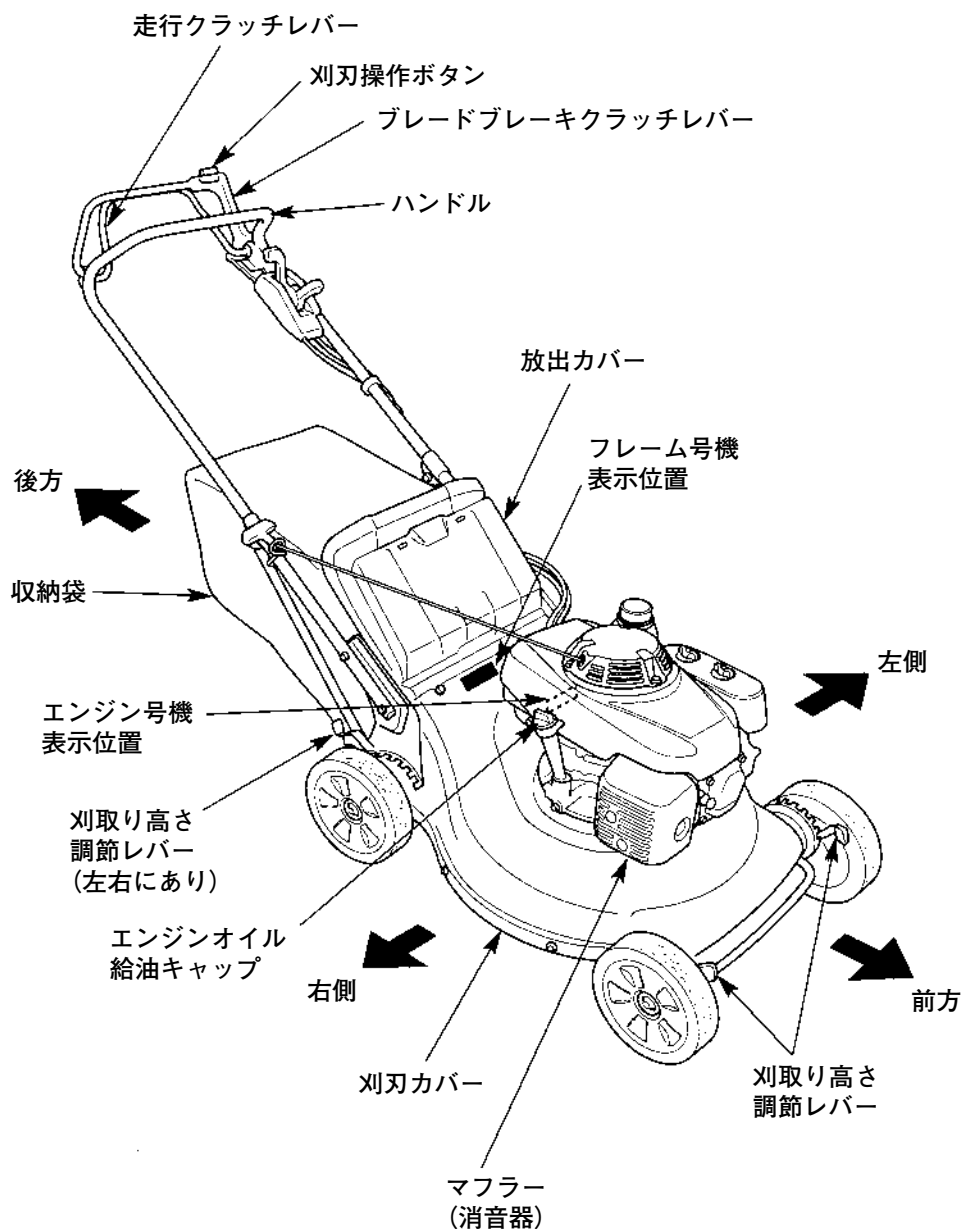
⚠ 警 告	
 火 気 厳 禁	火災や爆発により死傷するおそれがあるので、 ● 給油時にはエンジンを停止すること。 ● 給油口に火を近づけないこと。

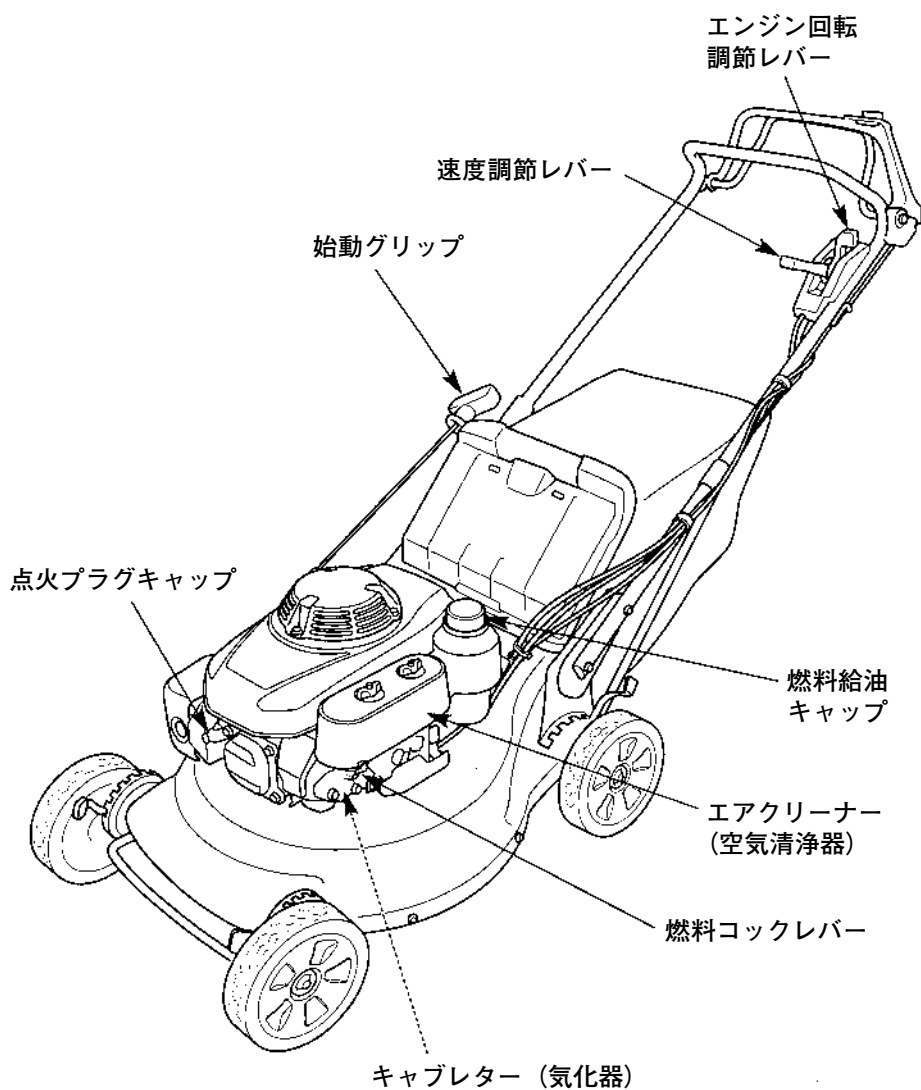


	⚠ 危険
	回転している刃にふれると、 死傷することがあるので、 近づかないこと。

	⚠ 注意
	ヤケドをする のでマフラーに ふれないこと。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

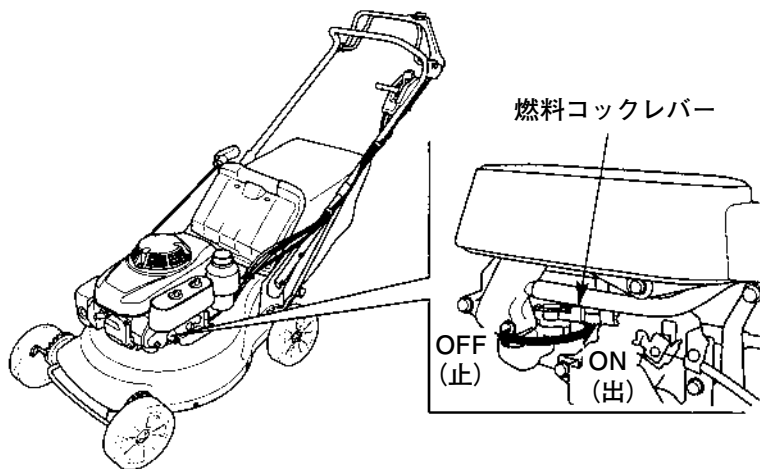




燃料コックレバー

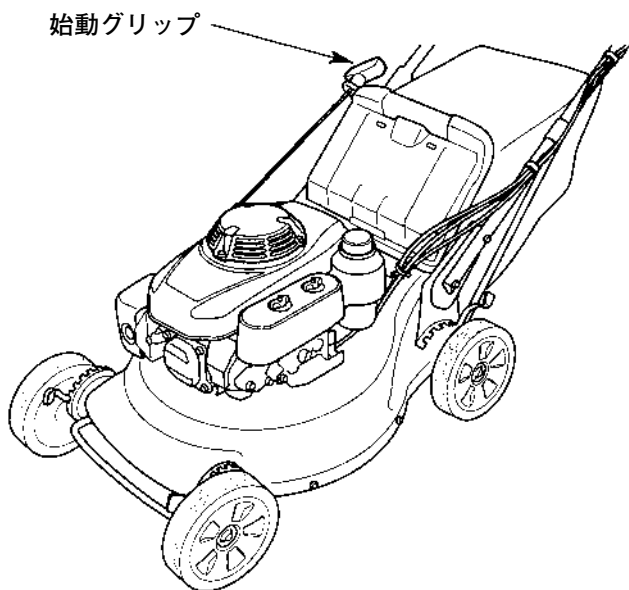
燃料タンクからキャブレーターまでの燃料通路を開閉するときに操作します。

操作は確実に“OFF”（止）、“ON”（出）の位置に合わせてください。



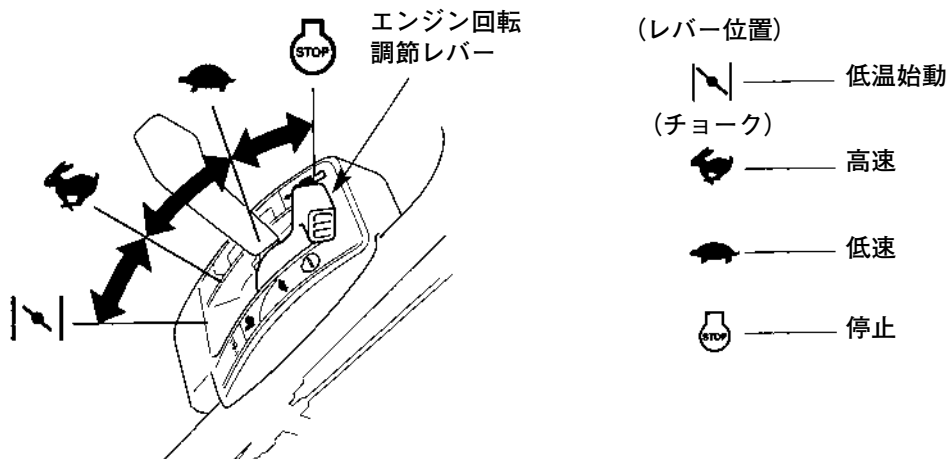
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



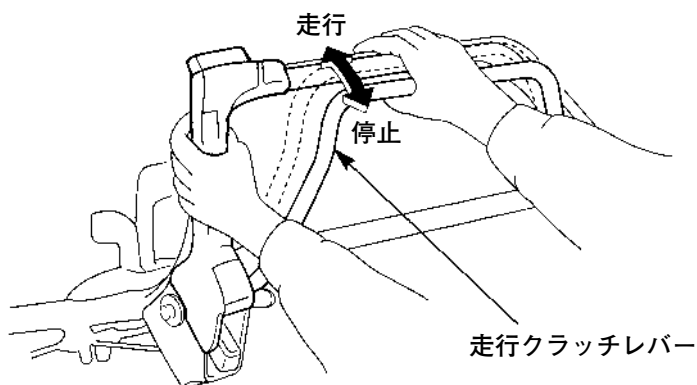
エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するものです。
エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



走行クラッチレバー

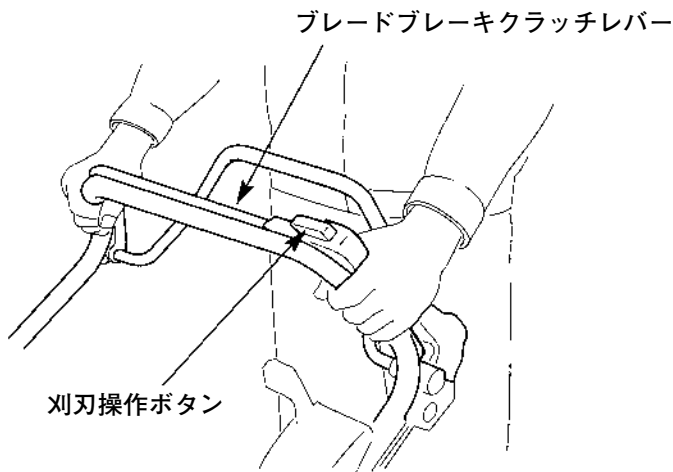
走行クラッチレバーを握ると走行し、放すと止まります。



ブレードブレーキクラッチレバー

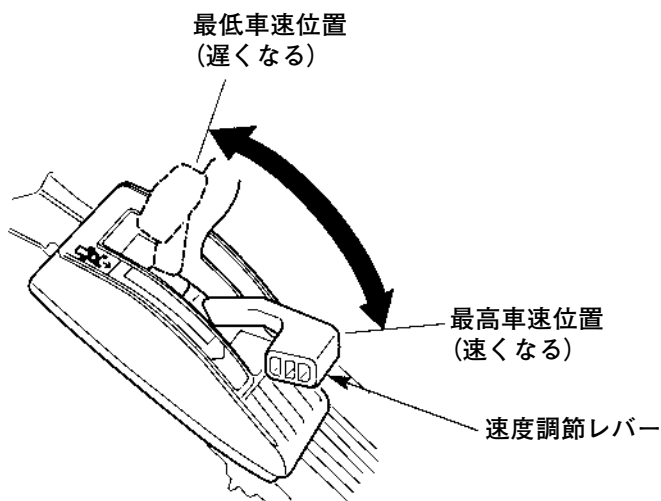
刈刃を回転、停止するときに操作します。

刈刃操作ボタンを押しながらブレードブレーキクラッチレバーを握ると刈刃が回転し、レバーを放すと刈刃は停止します。



速度調節レバー

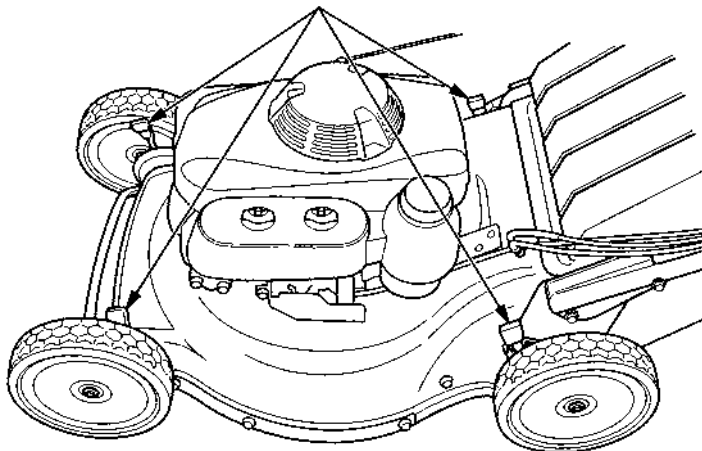
走行速度を調節するときに操作します。(27 頁参照)



刈取り高さ調節レバー

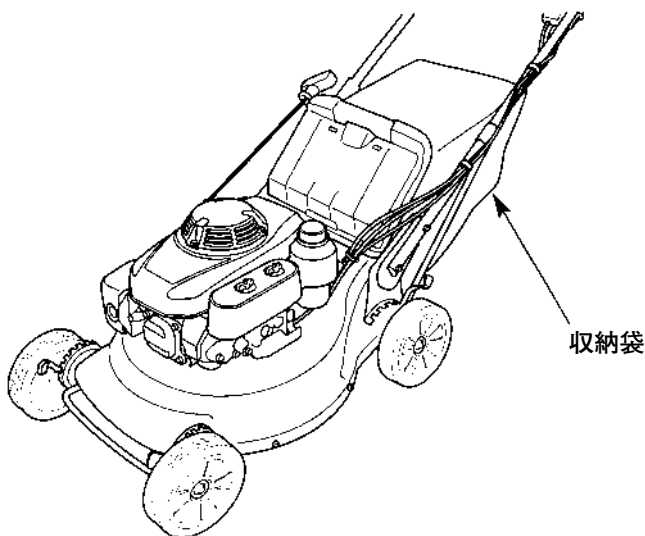
芝の刈取り高さを調節するときに操作します。レバーを操作して位置を変えることによって8段階に刈取り高さを調節できます。(25 頁参照)

刈取り高さ調節レバー



収納袋

刈取った芝を収納する袋です。



作 業 前 に 点 検 し ま し ょ う

⚠ 警告

- ・点検は平坦な場所で本機を水平にしてエンジンを止め、誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップをはずしてください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと本機を損傷するばかりでなく作業者や付近にいる人に大ケガをさせるおそれがあります。
- ・点検整備や保管時に本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐために燃料コックレバーを“OFF”（止）の位置に合わせてください。漏れた燃料が引火することがあります。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- ・ 本機のまわり …………… 燃料の量（16 頁参照）、エンジンオイルの量（18 頁参照）が規定量はいっていること。
燃料の漏れ、オイルの漏れがないこと。
エンジンのまわりにゴミ、枯れ芝などがいないこと。
- ・ レバーの作動 …………… レバーの遊び量（37 ～ 39 頁参照）が規定通りなこと。
引っかけがないこと、スムーズに作動すること。
- ・ 刈刃の状態 …………… 刈刃締付けボルトにゆるみがないこと。
刈刃に割れ、欠損、曲がり、摩耗がないこと。
- ・ 各部の締付け …………… 各ボルト、ナットにゆるみがないこと。
- ・ 配線、ケーブル類 …………… 被覆の破れや切れがないこと。
配線、ケーブルのはさまりがいないこと。
- ・ エンジンの始動、停止 … エンジン始動時、運転中に異音がないこと。
エンジンが確実に停止すること。
- ・ その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店にお申しつけください。

燃料の点検

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- ・ エンジンを停止してください。
- ・ 換気の良い場所で行ってください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、ヤケドを負うおそれがあります。

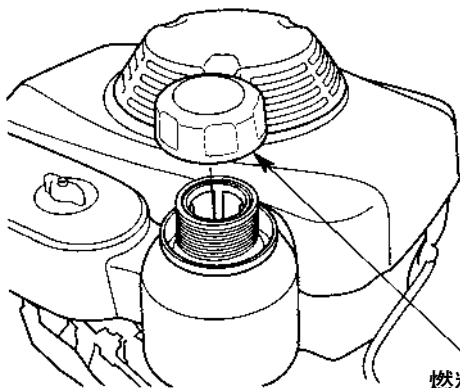
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができません。

- ・ ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- ・ ガソリンは注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

点 検

燃料給油キャップを外し、燃料があることを確認します。

少ない場合は補給してください。

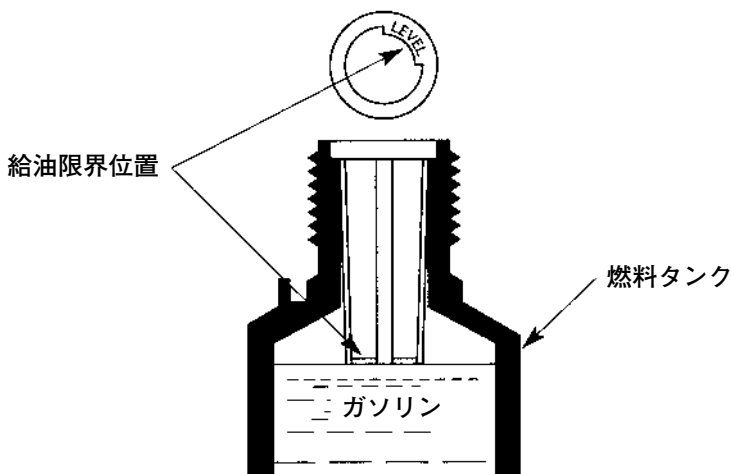


燃料給油キャップ

補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
- 補給後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。



取扱いのポイント

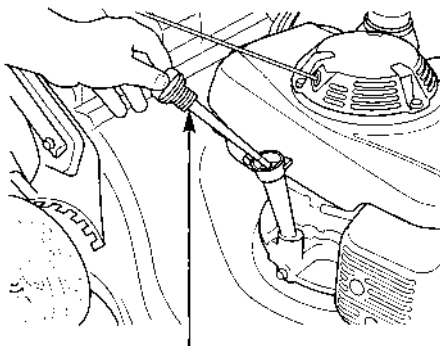
- ・ 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- ・ 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ・ ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジンオイルの点検

点検

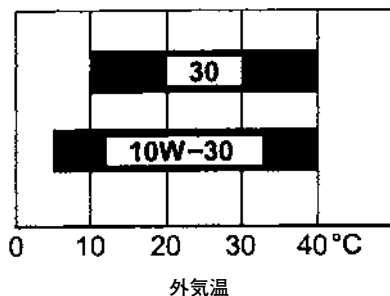
エンジンオイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップのネジの部分が給油口に当たった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。

油面が下限を下まわっているときは、上限までオイルを補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換方法は 33 頁参照)



エンジンオイル給油キャップ／
レベルゲージ

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



補給

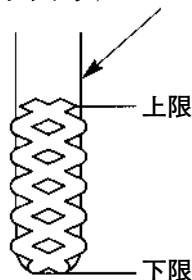
- ・ オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。

- ・ 推奨オイル

Honda 純正 ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30)

または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイル給油
キャップ／レベルゲージ



取扱いのポイント

- ・ エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

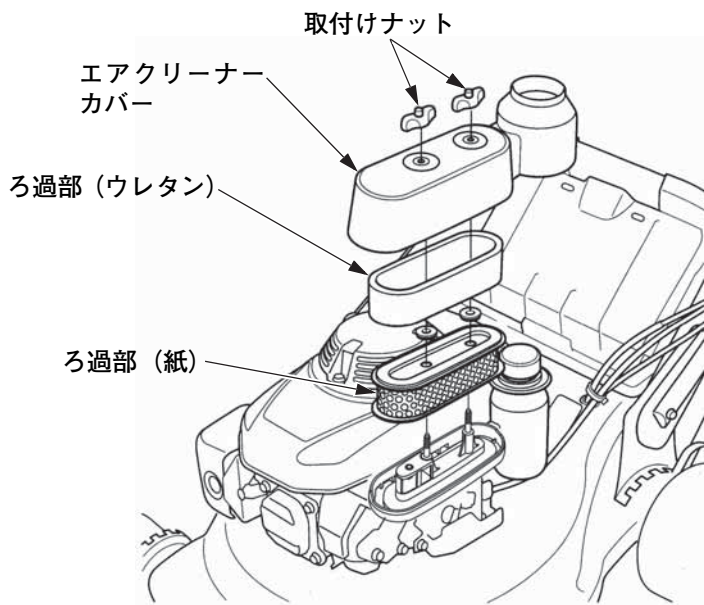
エアクリーナー（空気清浄器）の点検

点検

1. 取付けナットを外し、エアクリーナーカバーを取外します。
2. ろ過部（紙、ウレタン）の汚れを確認します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃または交換を行ってください。（清掃方法は 35 頁参照）

取扱いのポイント

- ・ エアクリーナーカバー取付けナットの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・ エアクリーナーカバーやろ過部を装着しなかったり、取付けかたが悪いと、ほこりなどが入り、エンジンに悪影響を与えます。



《ろ過部（ウレタン）の清掃手順》

「洗い油」または
「水で薄めた中性洗剤」
で洗う

布で包み押し
つぶすように
しぼる

新しいエンジンオイル
に浸す

布で包み押し
つぶすように
しぼる

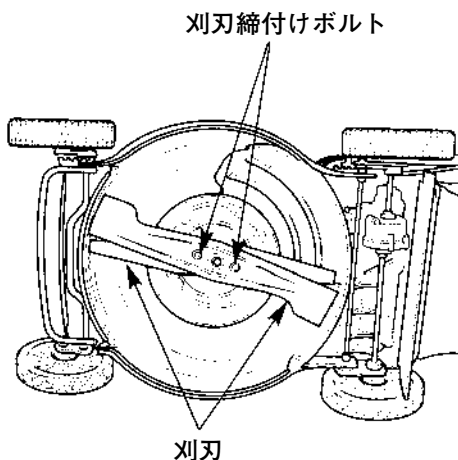
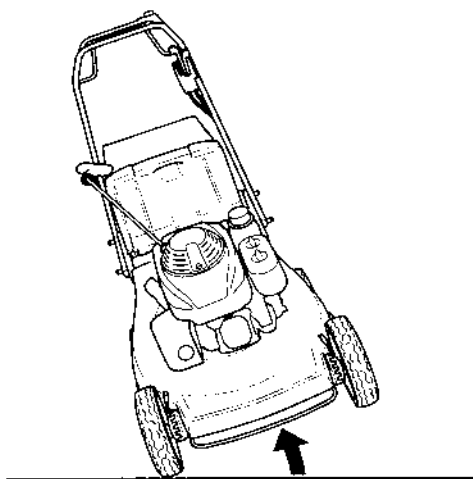


刈刃の点検

⚠ 警告

- ・ 作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆرم、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。交換するときはお買いあげ販売店にご相談ください。
- ・ 刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグキャップをはずしてから厚手の手袋を装着して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。
- ・ 本機を左側（キャブレター側）に倒さないでください。燃料がこぼれ危険です。

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを外します。
2. 燃料コックレバーを“OFF”（止）にし、本機を右側に倒します。



- ・ 刈刃に芝生がからまっている場合は、取除いてください。

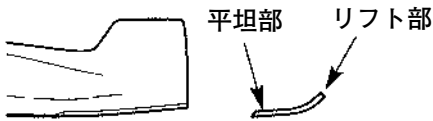
取扱いのポイント

傾斜させたまま放置しないでください。始動性が悪くなることがあります。

3. 刈刃の割れ、欠損、曲がり、摩耗を確認します。

新品

刈刃（下側）



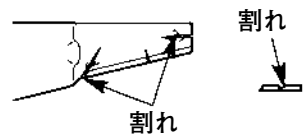
刈刃（上側）



刈刃（下側）



刈刃（上側）



警告

特にリフト部に割れが発生すると、刃先が折損して飛び出すおそれがあるので使用しないでください。

刈刃（下側）



刈刃（上側）



交換

換

刈刃（下側）

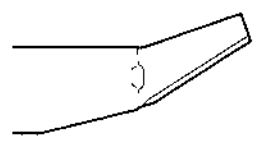
欠損



刈刃（上側）



曲がり



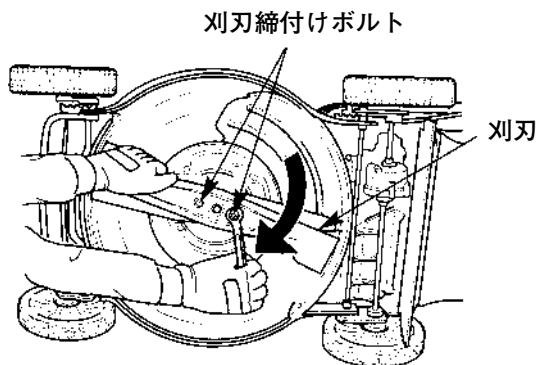
摩耗



- ・ 乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刈刃の摩耗が早いため頻繁に確認してください。

刈刃締付けボルトの点検

- 刈刃締付けボルトが、ゆるんでいないことを確認します。



⚠ 警告

刈刃締付けボルトの点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグキャップをはずしてから厚手の手袋を装着して行ってください。

各部の締付けの点検

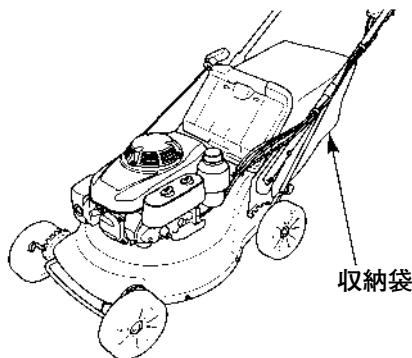
- ハンドル固定ボルトのゆるみがないこと。

収納袋の点検

⚠ 警告

収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷している場合は新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。

1. 目詰まりがないことを確認します。
収納袋が目詰まりしていると収納能力が落ちます。水洗いし十分に乾燥してから使用してください。
2. すり切れ、破れ、縫い目のほころびなどがないことを確認します。
3. 確実にセットされていることを確認します。
(脱着方法は 30 頁参照)



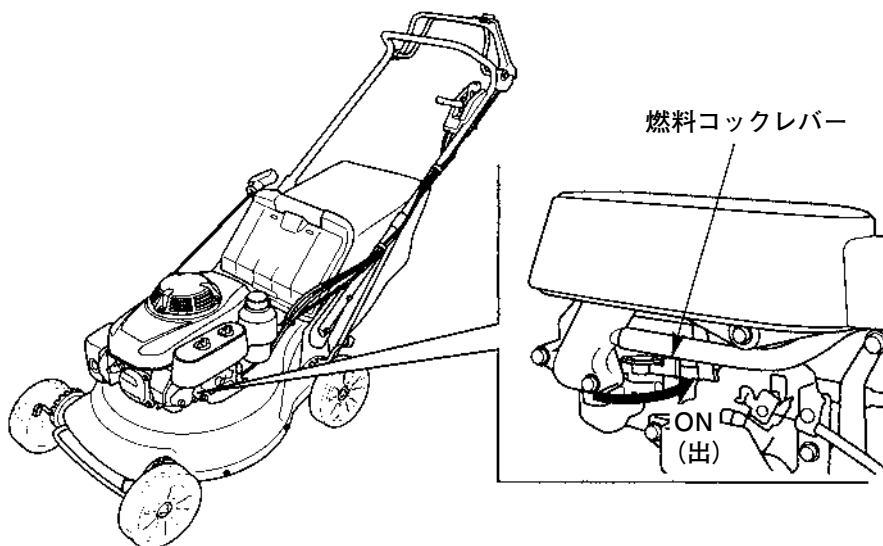
- 各部の点検が終わったら、点火プラグキャップを元通りに取付けてください。

⚠ 警告

- ・屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

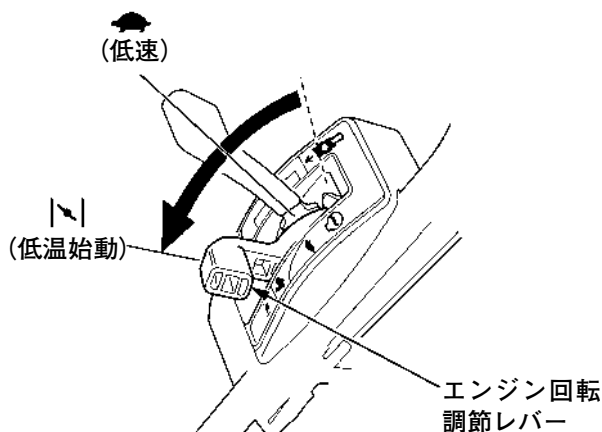
- エンジン始動の前に刈取り高さの調節（25 頁参照）と、収納袋の脱着（30 頁参照）を行ってください。

1. 燃料コックレバーを“ON”（出）に合わせます。



2. エンジン回転調節レバーを“”（低温始動）の位置にあわせます。

- エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときは“”（低速）の位置で始動します。

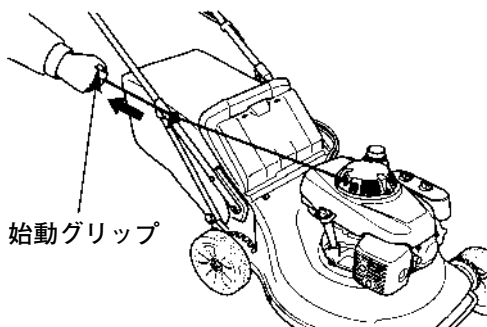


3. 本機をしっかり押え付けて、始動グリップをゆっくり引き、重くなったところで止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。始動グリップは手を添えて静かに戻してください。

取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

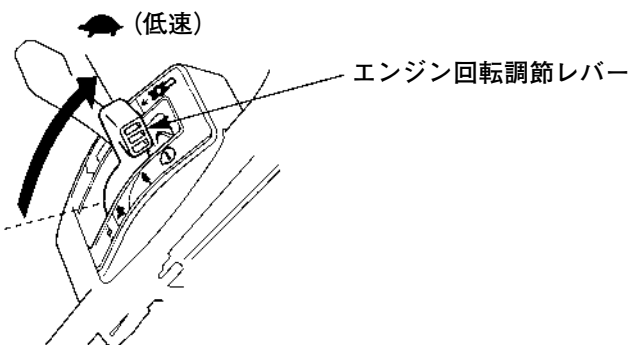
- エンジンの始動は、本機が安定する平坦な場所で行ってください。
- 始動グリップを引くとき、後方に人がいないことを確認してください。



4. 2～3分間暖機運転を行います。

“”（低温始動）の位置で始動したときはエンジン回転が安定したら、エンジン回転調節レバーを“”（低速）にします。

- 暖機運転を行うことは、エンジン各部にオイルを行きわたらせ、エンジンの寿命を長持ちさせます。



取扱いのポイント

芝の上での暖機運転はさけてください。マフラーなどの熱により芝が変色することがあります。

運 転 操 作 の し か た

芝刈り作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう」の項目を良くお読みになり芝刈り作業をしてください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたらただちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

1 刈取り高さの調節

⚠ 警告

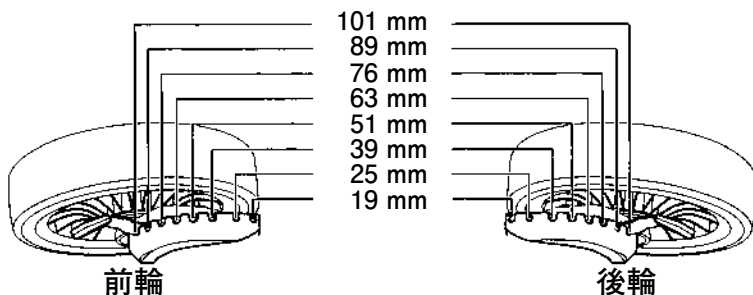
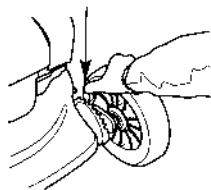
刈取り高さの調節をするときは、エンジンを停止し、各部の回転が止まっていることを確認してください。また誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップをはずしてください。

刈取り高さ調節レバーにより 8 段階（約 19 ～ 101 mm）まで調節ができます。調節レバーは前輪、後輪とも左右両側にあります。

《調節》

1. 厚手の手袋をし、本機を少し持ち上げてください。
 2. レバーをタイヤ側に引き、調節溝に入れてください。
- 伸びた芝を刈取る場合は最初に刈取り高さを高くして刈取り、次に刈取りたい高さまで低くして刈取ってください。

刈取り高さ調節レバー



取扱いのポイント

- ・ 刈取り高さ調節レバーは 4 輪とも同じ位置にしてください。芝刈機が不安定になったり、仕上がりが不均一になることがあります。
- ・ 確実に調節レバーが溝とかみ合っていることを確認してください。
- ・ 芝地の条件により、刈取り高さは多少変化することがあります。

- 刈取り高さの調節が終わったら、点火プラグキャップを元通りに取付けてください。

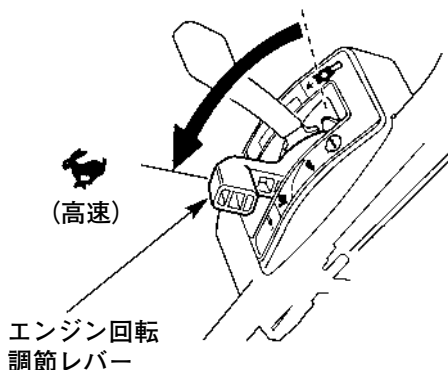
2 エンジン始動

エンジン始動要領に従ってエンジンを始動します。(23 頁参照)

3 運転操作

1. エンジン回転調節レバー

エンジン回転調節レバーを “”
(高速) にします。



⚠ 注意

本機からはなれる場合は必ずエンジン回転調節レバーを “” (停止) 位置にしてください。

2. ブレードブレーキクラッチレバー

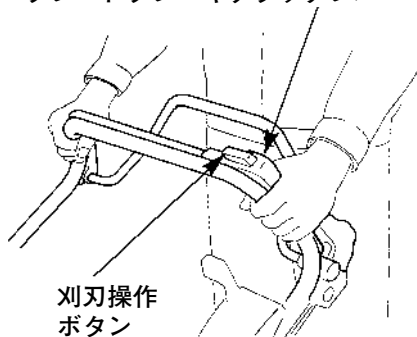
刈刃操作ボタンを押しながらブレードブレーキクラッチレバーを握り、刈刃を回転させます。刈刃が回転した後、刈刃操作ボタンを放しても刈刃は回転し続けます。

- ・ ブレードブレーキクラッチレバーを握った状態で、刈刃操作ボタンを押しても刈刃は回転しません。
- ・ 芝の伸びているところで急に刈刃を回転させると、エンジンが止まる場合があります。このようなときはハンドルを押し下げ前輪を少し浮かせるか、芝高さの低いところでレバーを握り刈刃を回転させてください。

取扱いのポイント

- ・ ブレードブレーキクラッチレバーはしっかり握ってください。半クラッチ (レバーをしっかりと握っていない) 状態で使用すると故障の原因となります。
- ・ 刈刃の回転に異常がある場合 (エンジンは運転中なのに刈刃が回転しない、または回転が遅い) は、ブレードブレーキクラッチケーブルの遊びを点検し、必要があれば調整してください。(調整方法は 39 頁参照)

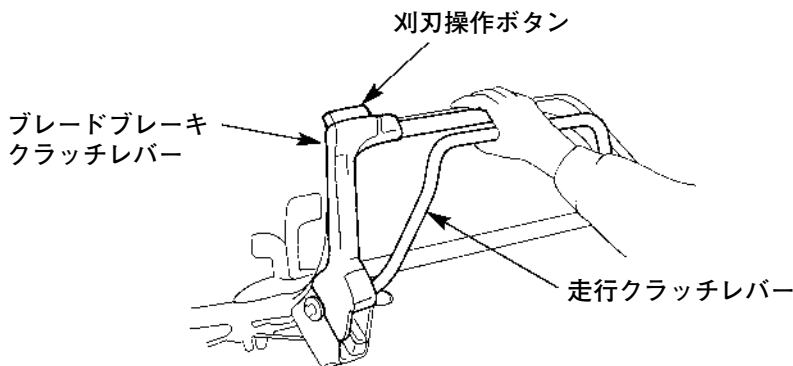
ブレードブレーキクラッチレバー



3. 走行クラッチレバー

刈刃操作ボタンを押さずにブレードブレーキクラッチレバーと走行クラッチレバーを一緒に握ると本機が自走します。

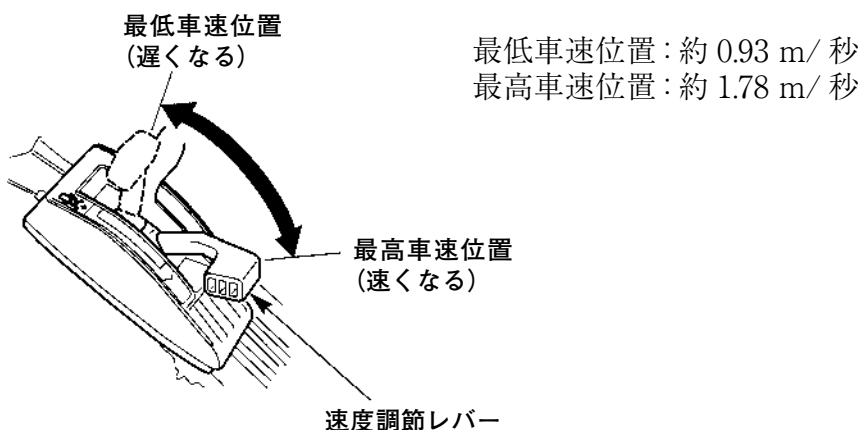
- ・ ブレードブレーキクラッチレバーの刈刃操作ボタンを押さないと刈刃は回転しませんので刈取りをせずに移動ができます。
- ・ 走行クラッチレバーをゆっくり握れば、ゆっくり走行を始めます。走行始めの振動も無く安全に発進でき、タイヤスリップによる芝のいたみも防ぐことができます。



4. 速度調節レバー

芝の状態、作業者の歩行速度に合わせて操作してください。

- 無段変速（細かいノッチがついています）で、走行中の速度調節も可能です。



4 刈取り作業

⚠ 警告

作業中に本機または刈刃が障害物に当たったときは、エンジンを停止し点火プラグキャップをはずしてから、本機に損傷がないことを確認してください。そのまま作業を続けると損傷した部品が飛散し大ケガをするおそれがあります。損傷した部品を交換するときは、お買いあげ販売店にご相談ください。

《自走刈り》

刈刃操作ボタンを押しながらブレードブレーキクラッチレバーを握ります。刈刃が回転しエンジンの回転が十分あがったところで走行クラッチレバーを握り芝刈り作業を行います。

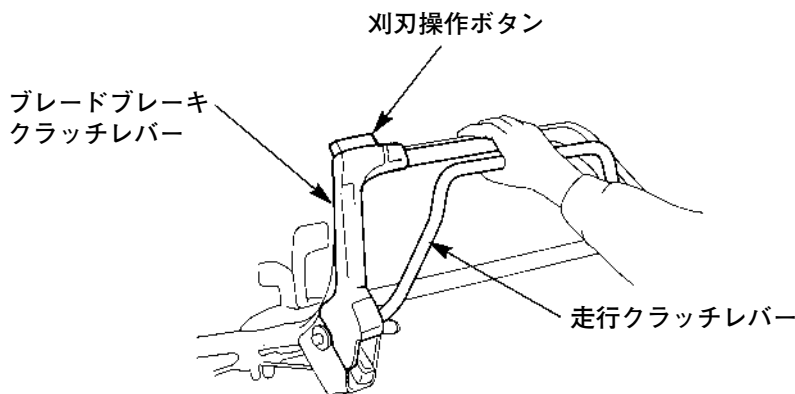
⚠ 注意

作業中はハンドルをしっかり握り、足元に十分注意し、本機の色速に合わせ行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

取扱いのポイント

エンジン回転が低いまま作業すると、エンジンが止まったり仕上がりか不均一になることがあります。

- ・ 方向転換は、走行クラッチレバー、およびブレードブレーキクラッチレバーを放し、ハンドルを押し下げながら前輪を少し浮かして行います。前方の飛散物に注意をしながら行ってください。
- ・ 芝刈り作業を中断することなく、走行中に速度調節することができます。作業内容に合わせて速度調節レバーを調節してください。(27 頁参照)



《手押し刈り》

⚠ 注意

作業中はハンドルをしっかり握り、足元に十分注意し、走らないで行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

刈刃操作ボタンを押しながらブレードブレーキクラッチレバーを握ります。刈刃が回転しエンジンの回転が十分あがったら本機を手で押して作業します。（このとき走行クラッチレバーは使用しません）

⚠ 警告

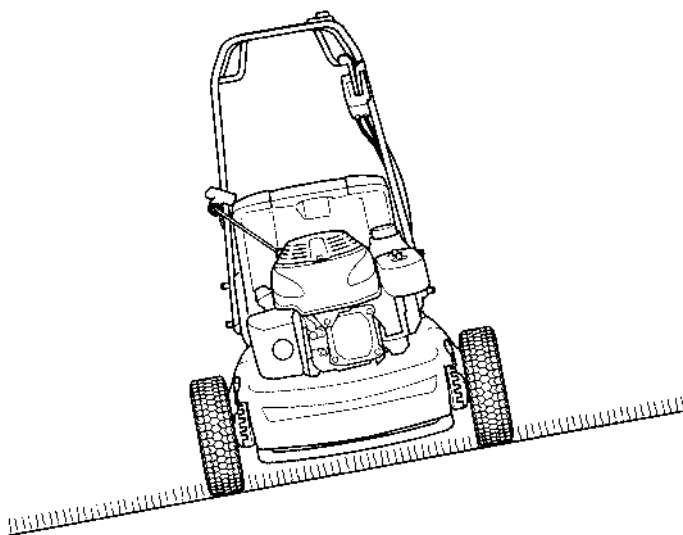
急な斜面や起伏の激しいところでは作業しないでください。斜面や起伏のあるところでは本機が安定せず転倒するおそれがあります。

《斜面》

- ・ 斜面での芝刈りは上下方向ではなく、横方向（等高線方向）に行ってください。
- ・ 斜面上での方向転換は十分注意を払ってください。
- ・ 急な斜面では本機を使用しないでください。

《起伏》

- ・ 起伏の多い所での芝刈り作業は十分に速度を落とし、足元に注意してハンドルをしっかり握り作業してください。



5 収納袋の脱着

⚠ 警告

収納袋の脱着は、必ずエンジンを停止してから行ってください。刈刃カバー内の石などの異物が飛び出し大ケガをするおそれがあります。

《取外し方》

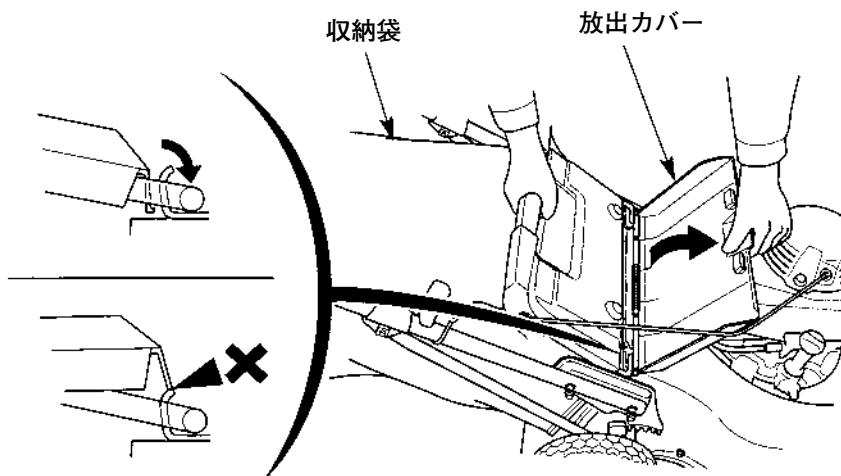
1. 本機の放出カバーを開きます。
2. 収納袋ハンドルを持ち上げながら後方に引いて取外します。

《取付け方》

1. 本機の放出カバーを開きます。
2. 収納袋のフレーム先端の爪を刈刃カバーの溝に合わせて取付けます。

⚠ 警告

- ・ 収納袋が確実に取付けられていることを確認してください。作業中に外れると放出物によってケガをするおそれがあります。
- ・ 収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷しているときは新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。



取扱いのポイント

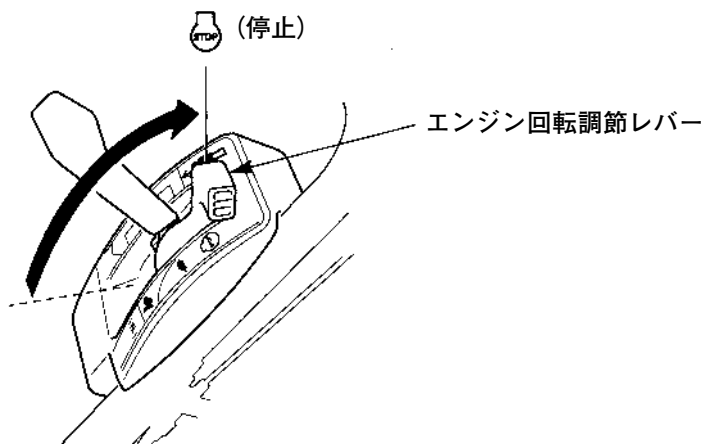
収納袋が目詰まりしていると収納能力が落ちます。水洗いをし十分に乾燥させて使用してください。

緊急停止の場合

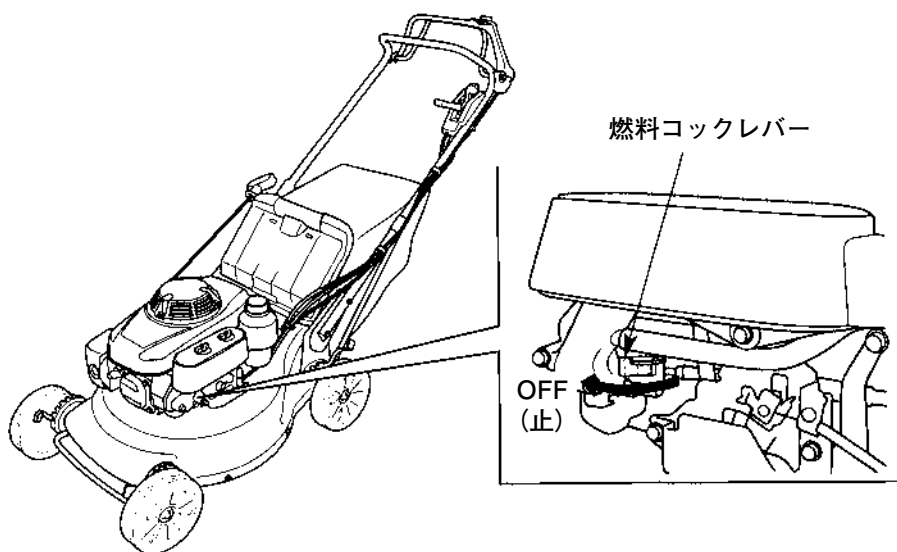
エンジン回転調節レバーを “STOP” (停止) にします。

通常停止の場合

1. 走行クラッチレバーとブレードブレーキクラッチレバーを放します。
2. エンジン回転調節レバーを “STOP” (停止) にします。



3. 燃料コックレバーを “OFF” (止) に合わせます。



定期手入れを行いましょう

定期点検整備項目

お買いあげいただきました芝刈機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

点検項目	点検時期 (3)	作業前 点検	1ヶ月目 または 初回 20 時間 運転目	3ヶ月毎 または 50 時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100 時間 運転毎	1 年毎 または 300 時間 運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検	○					18
	交換		○		○		33
エアクリーナー	点検	○					19
	清掃			○ (1)			35
	交換					○	35
配線、ケーブル類の点検	点検	○					—
刈刃締付けボルトの締付け	点検	○					22
刈刃ホルダー締付けボルトの締付け	点検				○ (2)		—
刈刃の状態	点検	○					20
収納袋	点検	○					22
本機廻りの点検、各部の清掃		○					15
レバーの作動	点検	○					15
エンジンの作動	点検	○					23
点火プラグ	点検・調整				○		36
	交換					○	36
ブレードブレーキクラッチ	点検				○ (2)		39
ブレードブレーキクラッチ ケーブル	点検・調整		○		○		39
走行クラッチケーブル	点検・調整				○		37
トランスミッションオイル	点検				○ (2)		—
	交換		1000 時間運転毎 (2)				—
エンジン回転調節ケーブル	点検・調整					○ (2)	—
アイドリング回転数	点検・調整					○ (2)	—
吸入・排気弁のすき間	点検・調整					○ (2)	—
燃焼室	清掃		300 時間運転毎 (2) (4)				—
燃料タンク、フィルター	清掃					○ (2)	—
燃料チューブ	点検		2 年毎 (必要なら交換) (2)				—
ホイールラチェット	給脂					○	—

- (1) ほこりの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は 10 時間運転毎または 1 日 1 回行ってください。
- (2) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店または、サービス店で実施してください。
- (3) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
- (4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠ 警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが動かないように点火プラグキャップを外して行ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》

Honda 純正 ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30)

または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

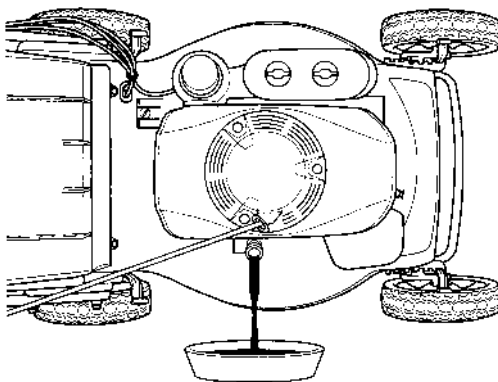
《規定量》 0.65 L

⚠ 注意

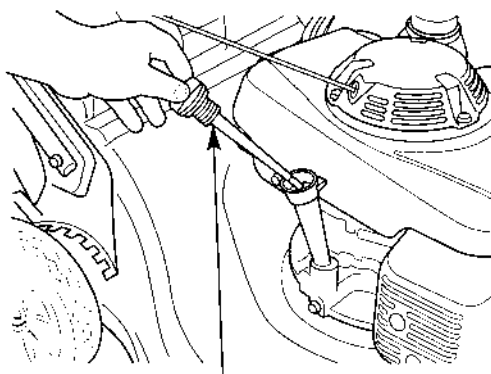
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドなどをするおそれがあります。

《交換のしかた》

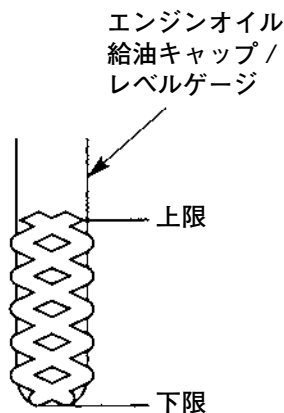
1. エンジン回転調節レバーを “” (停止) の位置にし、点火プラグキャップを外します。
2. 燃料コックレバーを “OFF” (止) にします。
3. エンジンオイル給油キャップを外し、本機を給油キャップ側に傾けオイルを抜きます。



4. エンジンオイルが完全に抜けたら本機を元に戻し水平な場所に置いてください。
5. エンジンオイルを給油キャップのレベルゲージで確認しながら上限まで注入します。給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。(18 頁参照)
6. 注入後、エンジンオイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



エンジンオイル給油キャップ /
レベルゲージ



取扱いのポイント

- ・ 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
- ・ オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- ・ エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の清掃

エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

⚠ 警告

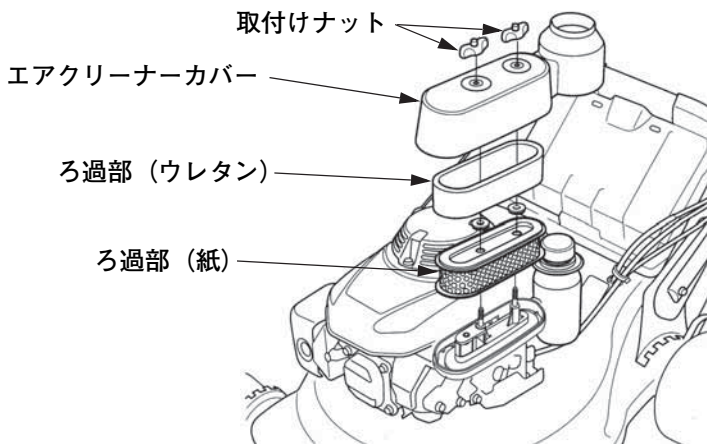
エアクリーナーの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

《清 掃》

3ヶ月毎または 50 時間運転毎

ほこりの多い場所で使用した場合は 10 時間運転毎または 1 日 1 回。

1. 取付けナットを外し、エアクリーナーカバーを取外します。
2. ウレタンのろ過部は洗油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。乾燥後、オイルに浸したあと、かたく絞ってください。（19 頁参照）
3. ろ過部（紙）は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. 清掃後、各部品を組付け、取付けナットを確実に締付けてください。エアクリーナーカバーの接続部にすき間、ズレがないことを確認してください。



取扱いのポイント

- ・ エアクリーナーカバー取付けナットの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・ エアクリーナーカバーやろ過部を装着しなかったり、取付けかたが悪いと、ほこりなどが入り、エンジンに悪影響をあたえます。

点火プラグの点検、調整、交換

点火プラグの清掃、調整、交換は、お買いあげの販売店にご相談ください。ご自身で作業する場合は以下の手順で行ってください。

⚠ 注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適當だと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検、清掃》

1. プラグレンチで点火プラグを取外します。
 2. プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。
お買いあげの販売店にご相談ください。
- プラグクリーナーが無いときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落としてください。

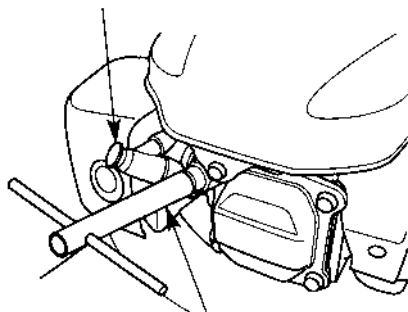
《調整》

- 側方電極をつめ、火花すき間を 0.7 ～ 0.8 mm に調整します。

《標準プラグ》

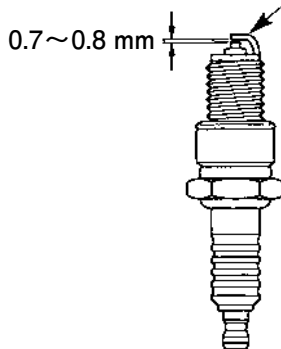
BPR5ES (NGK)
W16EPR-U (DENSO)

点火プラグキャップ



プラグレンチ

側方電極



取扱いのポイント

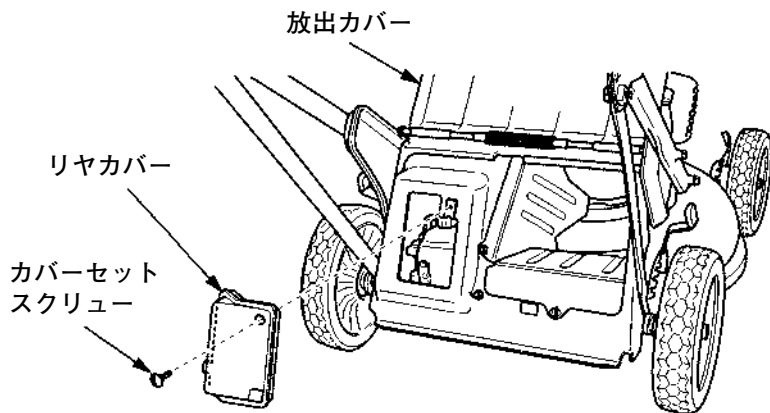
- ・故障の原因となるので標準プラグ以外、使用しないでください。点火プラグの取付けはネジ山を壊さないように指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締込んでください。
- ・点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

走行クラッチケーブルの点検、調整

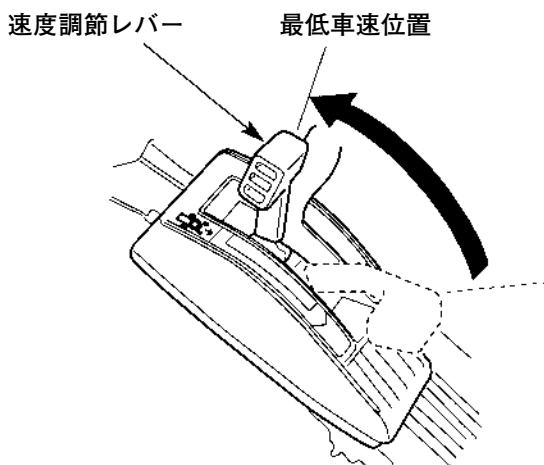
走行クラッチケーブルの調整が正しくないと、走行クラッチレバーを握っても走行できません。

《点検、調整》

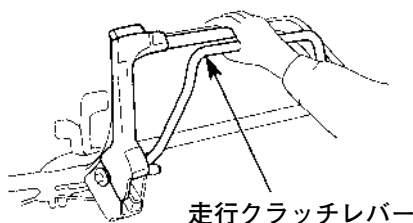
1. 後輪、左右の刈取り高さ調節レバーを 19 mm の位置にします。(25 頁参照)
2. 収納袋を取外し(30 頁参照)、放出カバーを開きカバーセットスクリューを取外し、リヤカバーを回転させながら取外します。



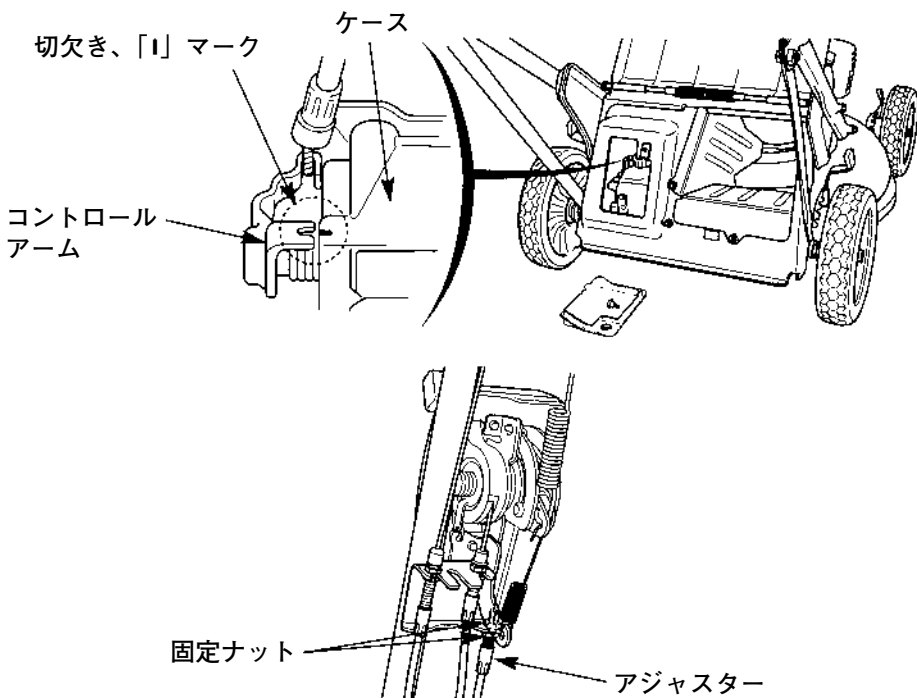
3. 速度調節レバーを最低車速位置に合わせます。



4. 走行クラッチレバーを握った状態で固定します。(このとき速度調節レバーを動かさないこと。)



5. 変速機本体のコントロールアームの切欠きをケースの「I」マークの中心へ合うように速度調節レバー側の固定ナットをゆるめ、アジャスターで調整します。



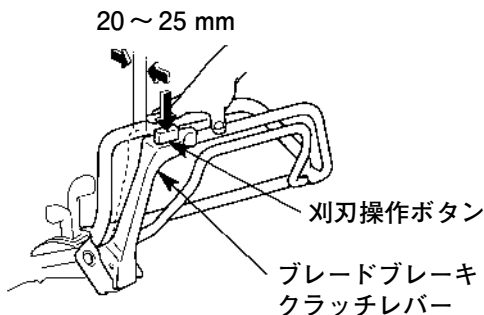
6. 固定ナットを確実に締付けます。
7. 調整後、リヤカバーを取付け、収納袋をセットしてエンジンを始動し走行クラッチレバーが正しく作動することを確認してください。走行クラッチレバーを握ると本機は走行し、放すと止まります。
8. 上記方法で調整しても走行しない場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

ブレードブレーキクラッチケーブルの点検、調整

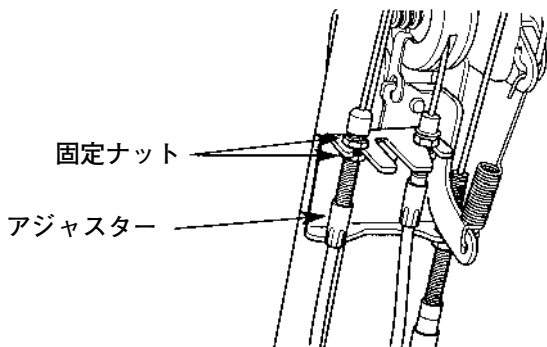
ブレードブレーキクラッチケーブルの調整が正しくないと、刈取りができなかったり仕上がりが不均一になります。

《点検、調整》

1. ブレードブレーキクラッチレバーの刈刃操作ボタンを押した状態でレバー先端の遊びが 20 ～ 25 mm になるように調整します。



2. 調整はブレードブレーキクラッチケーブルの固定ナットをゆるめ、アジャスターを回して行います。



3. 調整後固定ナットを確実に締付けます。
4. エンジンを始動します。刈刃操作ボタンを押しながらブレードブレーキクラッチレバーを握ると刈刃が回転し、放すと 3 秒以内に止まることを確認してください。異常がある場合はブレードブレーキクラッチやブレーキの整備が必要です。お買いあげ販売店にお申しつけください。

長 期 間 使 用 し な い と き の 手 入 れ

長期間使用しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- ・ 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠ 注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

エンジンを停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから外してください。

① 燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜いてください。

⚠ 警告

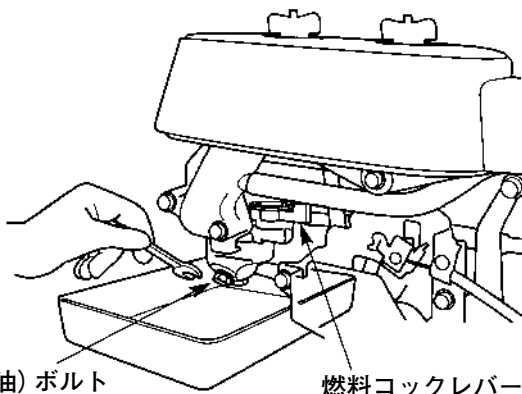
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- ・ 換気の良い場所で行ってください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《 抜き方 》

燃料を受けるため、適切な容器をキャブレターの下方に配置してください。確実に燃料を受けるため必要に応じ、じょうごなどを使用してください。

1. 燃料コックレバーを “ON” (出) の位置にします。(11 頁参照)
2. ドレンボルトを 1 ～ 2 回転ゆるめて、燃料タンク、キャブレター内の燃料を抜きます。

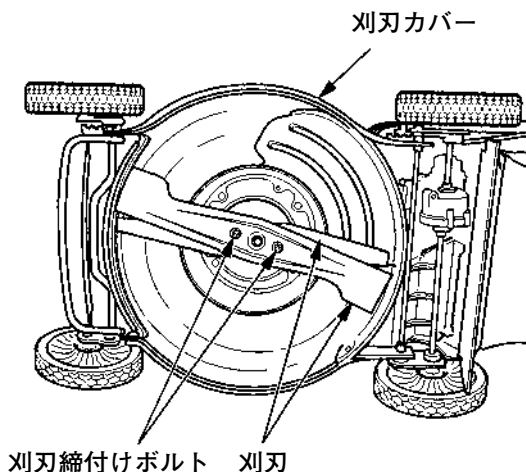


3. 完全に燃料が抜けたら、ドレンボルトを確実に締付けてください。
4. 燃料コックレバーを“OFF”（止）の位置にします。（11 頁参照）

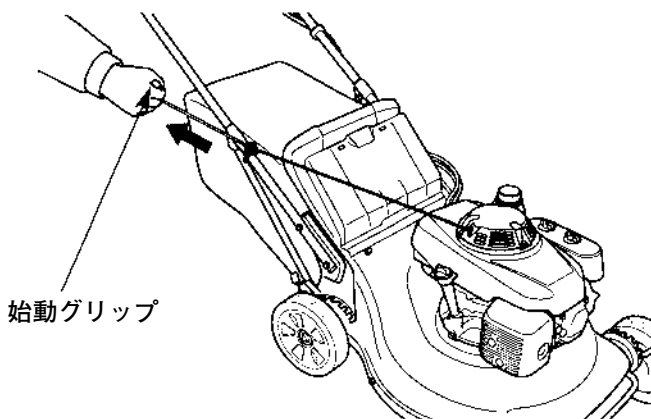
② エンジンオイルを交換してください。（交換方法は 33、34 頁参照）

③ エアクリーナーを清掃してください。（清掃方法は 35 頁参照）

④ 本機を右側に傾斜させ、刈刃および各部を清掃し、締付けがゆるんでいないことを確認してください。刈刃にエンジンオイルを塗布してください。

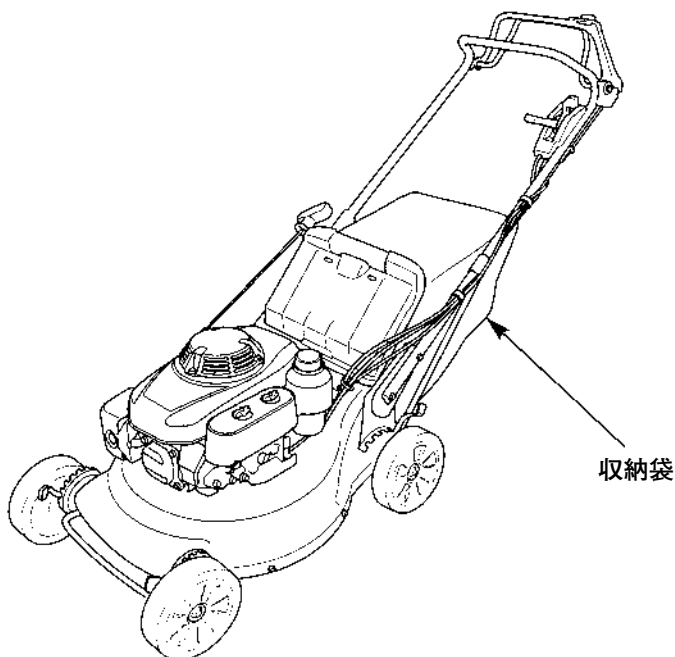


⑤ 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



6 収納袋を取外し、清掃してください。

収納袋が目詰まりをしているときは、水洗いをし、十分に乾燥させてから取付けてください。



7 カバーをかけ、風通しの良い場所に保管してください。

故 障 の と き は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

①エンジンが始動しない

点 検	原 因	解決方法
燃料コックレバーの確認をしてください。	燃料コックレバーが“OFF”（止）の位置にある。	燃料コックレバーを“ON”（出）の位置にしてください。（23 頁参照）
エンジン回転調節レバーを確認してください。	エンジン回転調節レバーが間違った位置にある。	まだエンジンが暖かくないときはエンジン回転調節レバーを“  ”（低温始動）の位置にしてください。（23 頁参照）
燃料の確認をしてください。	燃料が入っていない。	燃料の補給をしてください。（17 頁参照）
	燃料が無鉛レギュラーガソリン以外のもの、または粗悪ガソリンを入れている。	燃料タンクとキャブレターから燃料を抜き（40 頁参照）、新しい燃料を補給してください。（17 頁参照）
点火プラグの確認をしてください。	点火プラグが標準プラグ以外のものを使用している。火花すき間が適正でない。	標準プラグを使用してください。（36 頁参照）火花すき間の調整（36 頁参照）、または点火プラグを交換してください。（36 頁参照）
	点火プラグが濡れている。	点火プラグを乾かし、取付けてください。

②うまく刈取りができない

点 検	原 因	解決方法
エンジン回転調節レバーを確認してください。	エンジン回転調節レバーが“  ”（低速）の位置にある。	エンジン回転調節レバーを“  ”（高速）の位置にしてください。（26 頁参照）
芝生の状態を確認してください。	芝生が伸びている。または濡れている。	刈取り高さを高くしてください。（25 頁参照）走行速度を遅くしてください。（27 頁参照）芝生が乾いているときに芝刈り作業をしてください。
本機の刈取り部を確認してください。	芝生や刈った芝が詰まっている。	刈取り部を清掃してください。（20 頁参照）
エアクリーナーを確認してください。	ろ過部が汚れている。	ろ過部の清掃または交換をしてください。（35 頁参照）
燃料の確認をしてください。	燃料が無鉛レギュラーガソリン以外のもの、または粗悪ガソリンを入れている。	燃料タンクとキャブレターから燃料を抜き（40 頁参照）、新しい燃料を補給してください。（17 頁参照）

③本機の過度の振動

点 検	原 因	解決方法
刈取り部と刈刃を確認してください。	刈取り部に刈取った芝や異物が詰まっている。	刈取り部を清掃してください。(20 頁参照)
	刈刃締付けボルトがゆるんでいる。 刈刃が割れ、欠損、曲がりまたは不均等に摩耗している。	刈刃締付けボルトを確実に締付けてください。(22 頁参照) 刈刃に割れ、欠損、曲がりまたは摩耗がありましたら、お買いあげ販売店で交換してください。(21 頁参照)

④本機性能の低下

点 検	原 因	解決方法
エンジン回転調節レバーが“  ” (高速) の位置にあることを確認してください。	エンジン回転速度が遅すぎるため、うまく刈取れません。 エンジン回転調節レバーが“  ” (低速) の位置にある。	エンジン回転調節レバーを“  ” (高速) の位置にしてください。(26 頁参照)
刈取り高さ調節レバーを確認してください。	前後輪の刈取り高さ調節レバーが違う位置にある。	前後輪の刈取り高さ調節レバーを同じに調節してください。(25 頁参照)
収納袋を確認してください。	収納袋が一杯になっている。または目詰まりしている。	収納袋を空にしてください。ほこりなどで目詰まりを起こしていたら、収納袋を洗ってください。(30 頁参照)
刈取り部と刈刃を確認してください。	刈取り部に刈取った芝や異物が詰まっている。	刈取り部を清掃してください。(20 頁参照)
	刈刃の切れが摩耗により鈍くなっている。または刈刃に問題がある。	刈刃に割れ、欠損、曲がりまたは摩耗がありましたら、お買いあげ販売店で交換してください。(21 頁参照)

主

要

諸

元

名	称	HRC536K1
型	式	MAKA

エンジン

形	式	強制空冷 4 ストローク単気筒 OHV
排	気 量	163 cm ³
内 径 × 行 程		68.0×45.0 mm
点 火 方 式		トランジスタマグネト式
オ イ ル 容 量		0.65 L
燃 料 タ ン ク 容 量		1.5 L
点 火 プ ラ グ		BPR5ES (NGK)、W16EPR-U (DENSO)

フレーム

全	長	1,660 mm
全	幅	585 mm
全	高	1,010 mm
刈	幅	約 541 mm
刈	高	約 19 ~ 101 mm (前後 8 段階)
収 納 袋 容 量		76 L
乾 燥 質 量 (重 量)		55.8 kg

注意：諸元は、予告なく変更することがあります。

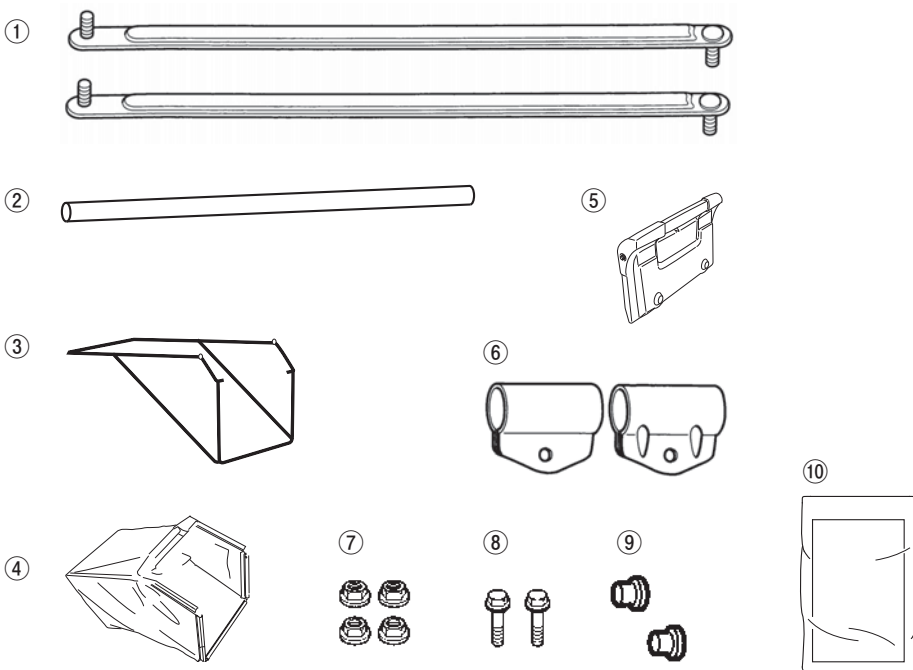
同 梱 部 品 の 組 付 け か た

次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。

なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取付け方法は同じですのでご了承ください。

●同梱部品リスト

No.	商品名	個数	No.	商品名	個数
①	ハンドルサポートプレート	2	⑥	ハンドルサポートハンガー	2
②	収納袋ジョイント	1	⑦	セルフロックナット	4
③	フレーム	1	⑧	フランジボルト	2
④	収納袋	1	⑨	プッシュナット	2
⑤	収納蓋	1	⑩	取扱説明書	1

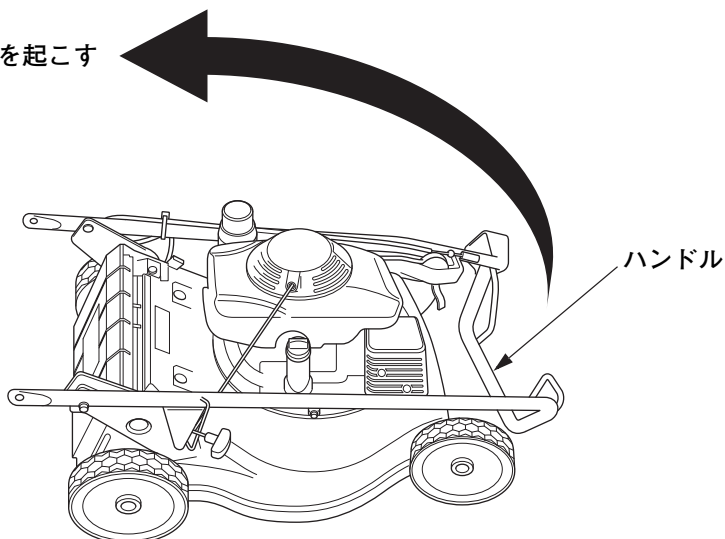


ハンドルの組付け

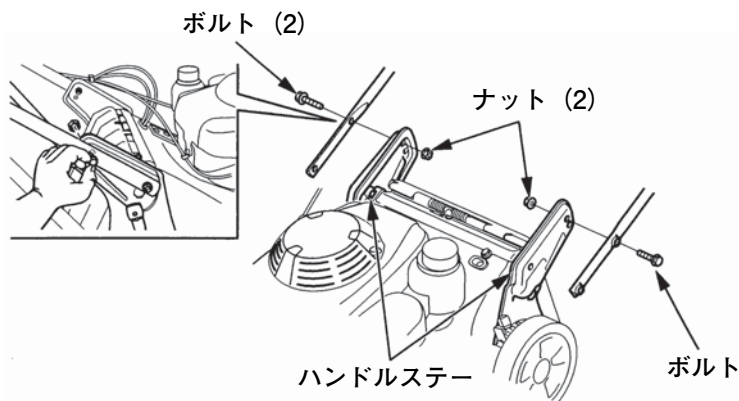
ハンドルは、ボルトおよびナットで仮締めされています。

1. ハンドルを起こします。

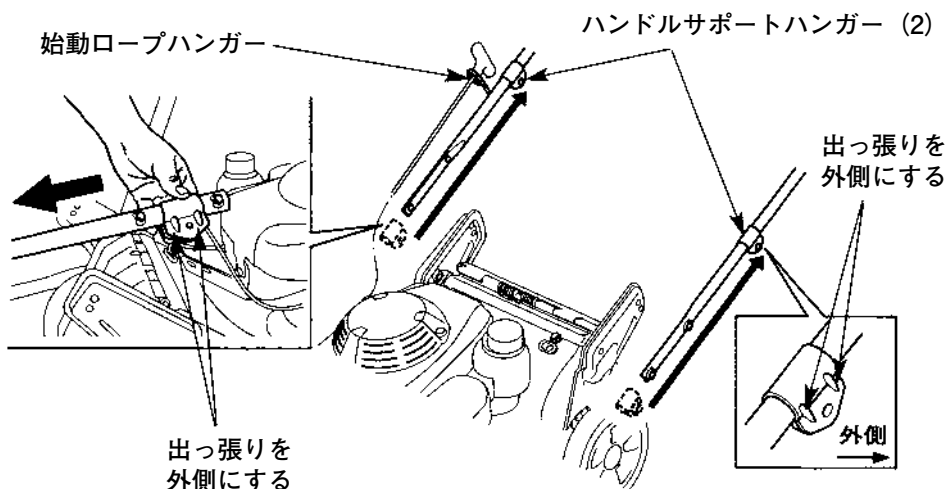
ハンドルを起こす



2. ハンドルを仮締めしているナットをゆるめ、ボルトを外します。

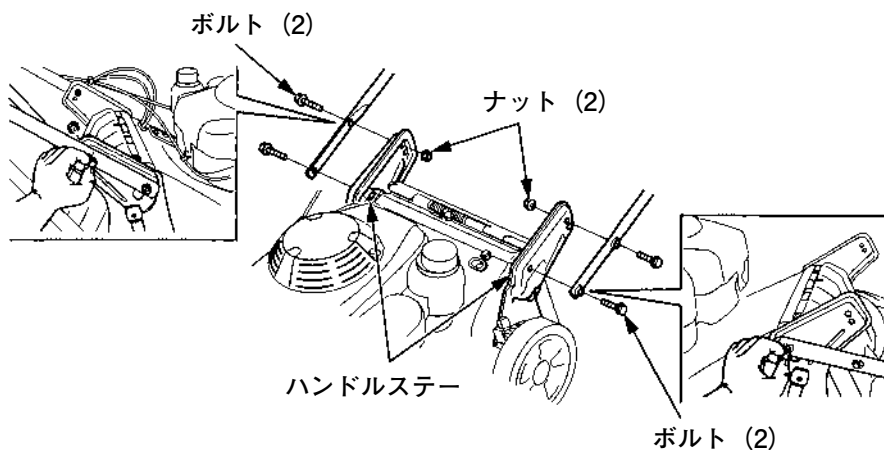


3. ハンドルサポートハンガーをハンドルの左右に取り付けます。
 ハンドルサポートハンガーの引っ張りが外側になるように取り付けます。



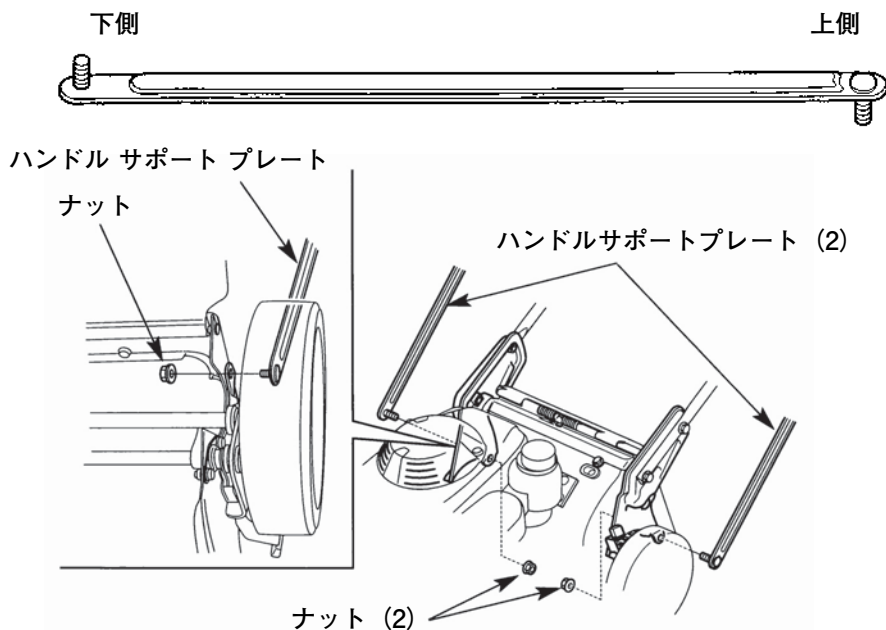
ハンドル右側の始動ロープハンガーの付近では、ハンドルサポートハンガーを開きながら、始動ロープハンガーの上側まで通します。
 開いたハンドルサポートハンガーを元に戻します。

4. ハンドルステーの下側のねじ穴にフランジボルトを通し、ハンドルを仮締めします。
5. ハンドルの高さを調整し、ハンドルステーの上側のねじ穴に手順 2 で外したボルトを通し、ナットでハンドルを締め付けます。

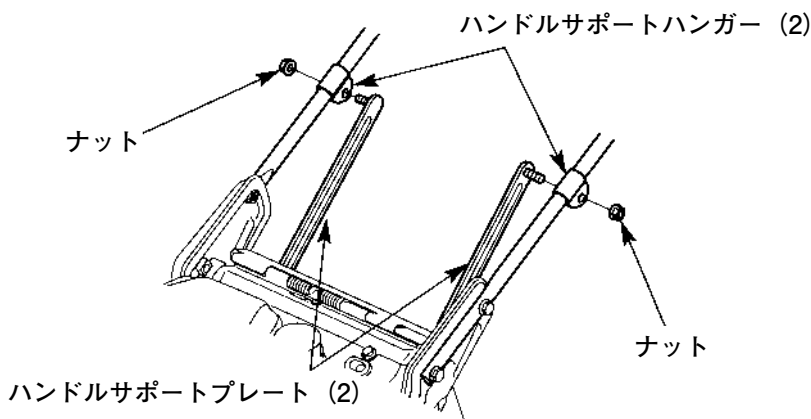


6. 後輪の刈取り高さ調節レバーが19 mmの位置にあることを確認します。
 (25 頁参照)

7. ハンドルサポートプレートの下側をハンドルステーに組付け、セルフロックナットで仮締めします。

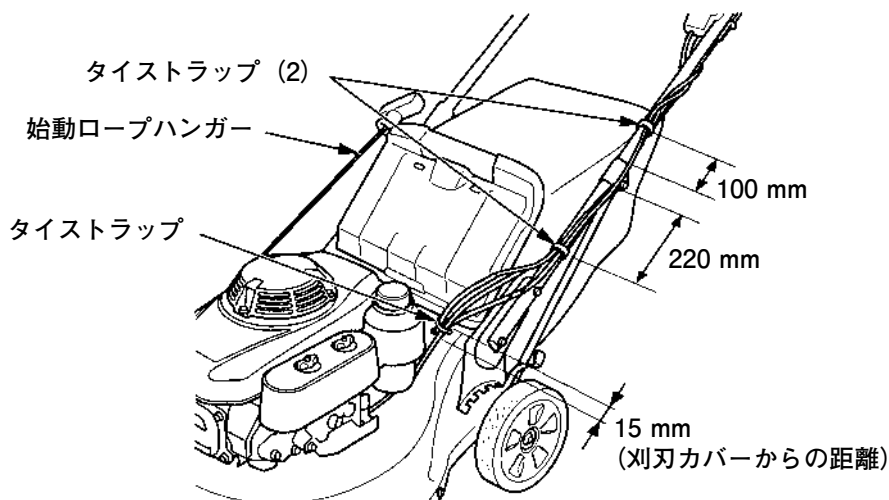


8. ハンドルサポートハンガーの上側をハンドルサポートハンガーに組付け、セルフロックナットで締め付けます。



9. 手順4および7で仮締めしたボルトおよびナットを確実に締め付けます。

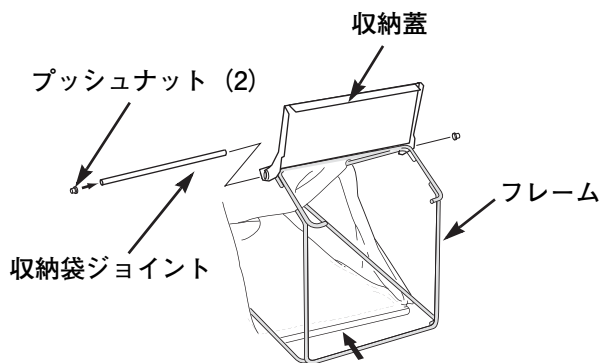
10.タイストラップの位置を調節し、速度調節レバーケーブルおよびエンジン回転調節レバーケーブルを固定します。



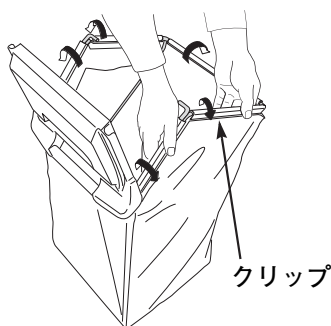
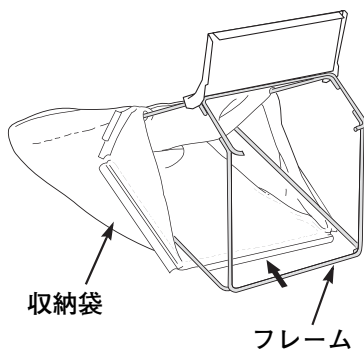
11.ブレードブレーキクラッチケーブルおよび走行クラッチケーブルを調整してください。(37～39頁参照)

収納袋の組立

1. 収納袋のフレームに収納蓋を組付け、収納袋ジョイントを通します。
2. プッシュナットで収納袋ジョイントを固定します。

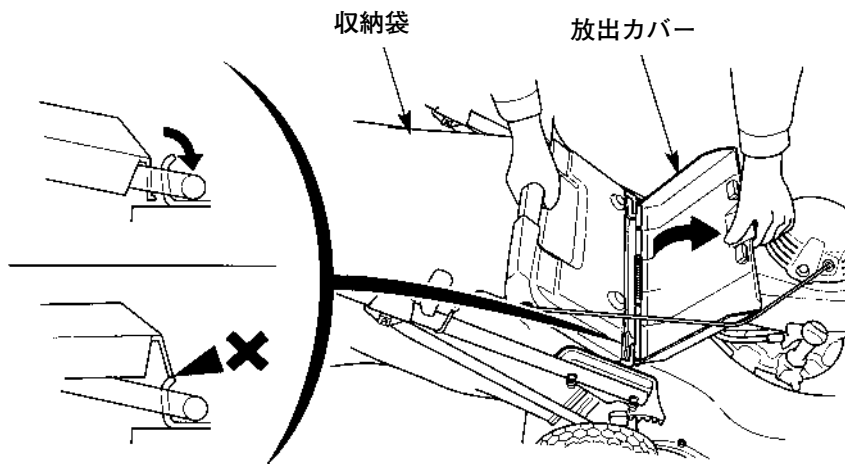


3. フレームを収納袋に差し込みます。
4. 収納袋のクリップ (6箇所) をフレームにはめ込みます。



収納袋の取付け

1. 本機の放出カバーを開きます。
2. 収納袋のフレーム先端の爪を刈刃カバーの溝に合わせて取付けます。



本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda の販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記
のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0 1 2 0 - 1 1 2 0 1 0

受付時間 9:00 ～ 12:00 13:00 ～ 17:00
〒 351-0188 埼玉県和光市本町 8 - 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応
させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ①製品名、タイプ名
- ②ご購入年月日
- ③販売店名
- ④フレーム号機 _____（書込み控え欄）

HONDA

HRC536
30VK6614
00X30-VK6-6140

© 2022 本田技研工業株式会社
Printed in Japan